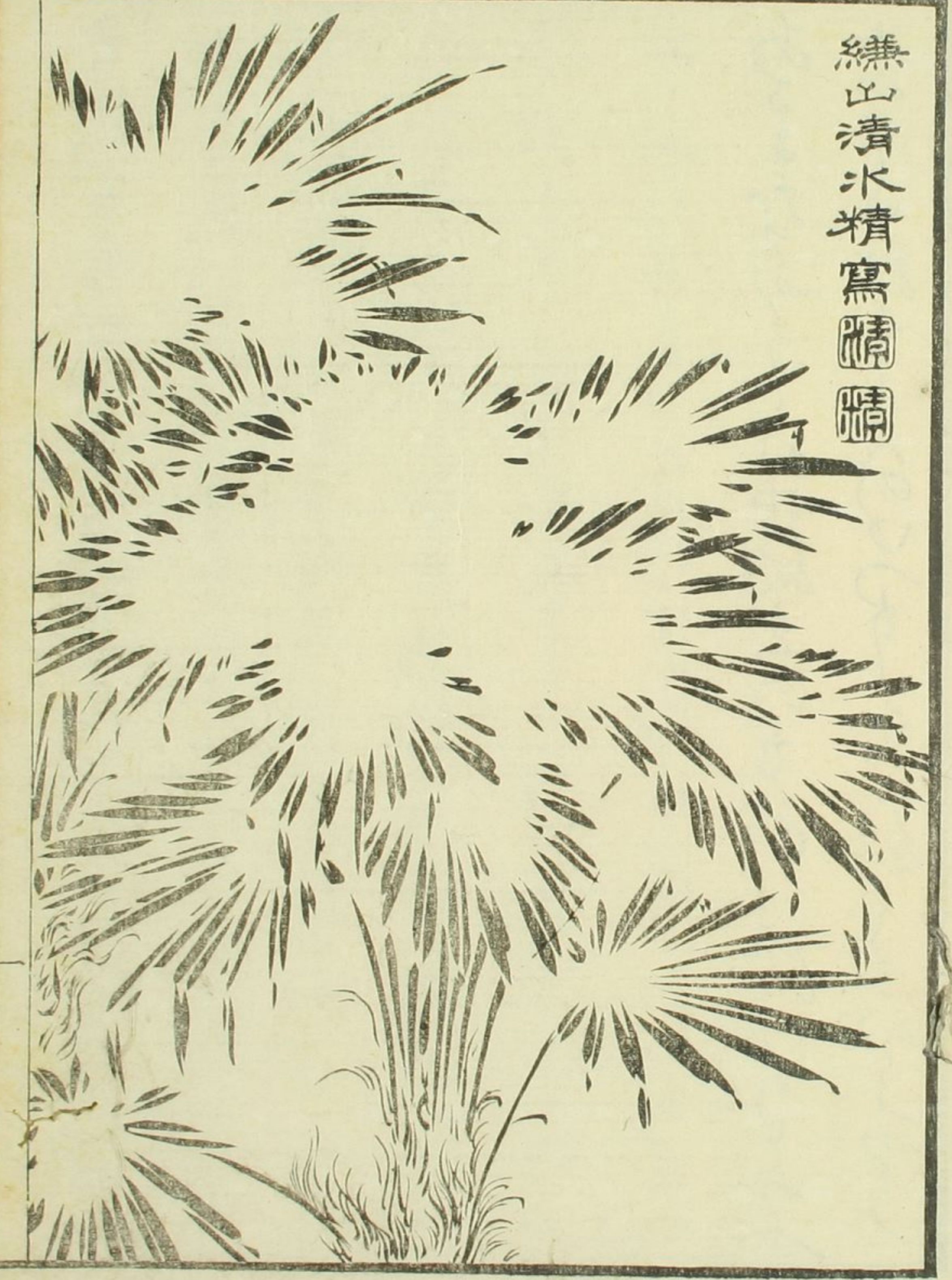


鴨川詠集 詠雪百首

4326
2c





燕山清水精寫



月 一
張 4326
卷 2

うしろの山に雪をたいてかたむきよの南年
をきくちかしこみの

あかしの雪をきくちかしこみの

雪をきくちかしこみの

北原廣道



詠雪百首

冬こりりれすもおふ小倉るをれ
うしろの山に雪をたいてかたむきよの南年
をきくちかしこみの
あかしの雪をきくちかしこみの

とけのしほかとましくぬるこ
い出てほひよを敷みちぬるこ
おのれさうしんをぬるこ

Handwritten title 松屋

秋の田れぬせおのなる縄くらと

Handwritten text



春をて先づしとみしゆせぬ
いそりおははふらぬ
あしのきいこえてけりきよ
うちをえぬゆれすれゆ
田子の浦ふるや次ありゆ
ゆきにかなしくあはぬ松屋

奥のよあらぬなるを
きりたるをハハハ
かこはれしをハハハ
かこはれしをハハハ
かこはれしをハハハ
かこはれしをハハハ

口を閉ぢしをハハハ
口を閉ぢしをハハハ
口を閉ぢしをハハハ
口を閉ぢしをハハハ
口を閉ぢしをハハハ
口を閉ぢしをハハハ

よき事候はなほおぼしき
浮きぬるものなるは
正付風はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき

よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき
よき事候はなほおぼしき

ちよふゆ神代なつた
きりぎりすのこゝろ
後の江の松のきりぎりす
よき人かたきりぎりす
なほけいこにたれあはれ
あふふふふふふふ

只のぬきこはしむぬき
今えとみえし人をありの
はのこもあぬえんぬき
なつたに梅のきりぎりす
笛乃きりぎりす

月も光の海にほろりたるよ
きよなる水にほろりたるよ
こゝろの舟にすまぬやうなる
友まのゆきにはほろりたるよ
名はおのれもなほほろりたるよ
きよなる水にほろりたるよ

小倉山一帯にほろりたるよ
きよなる水にほろりたるよ
みよ平河舟にほろりたるよ
きよなる水にほろりたるよ
おのれもなほほろりたるよ
きよなる水にほろりたるよ

らあてに海(あ)の(ち)を(い)ま(い)ふ
は(ま)が(あ)ま(り)な(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ

らあてに海(あ)の(ち)を(い)ま(い)ふ
は(ま)が(あ)ま(り)な(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ
あ(ま)の(い)は(ら)ぬ(あ)は(ら)ぬ

人さすはかたきくはかたきく

ゆきれ舞ふふもふはなは

あはれ夜八日いひしはの東に

きこえれ出るふゆき入るは

白露子いれはふも阿はれなり

ゆきにをれぬる志のふす

あはれ我も嬉しんは

あはれことなまはし

あはれふのふれふもふ

こひいふもふもふ

思ふれと老ては

ゆきはふらけしを

恋すゝあゝおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

ちよき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

あゝおかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

おかしき言はれんおかしき言はれん

八重あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

君うめおはなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

あつらふさよふなほしよふなほし

なまきりゆめりんはまら松浦うい
おんよゝゝいふふゆふのまら
忘れぬおんはまら
いふふふふふふふふふふ
たふはまらふふふふふふふふ
松浦のまらふふふふふふ



あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ

中よりはてしなくおにほひけりまほしき

雪ころりふりしちしめりちるはゆ

古乃も我あじしやかきふん

ゆえのけれちる志かたの山す

大に中よりもく月もうたふり

とけゆに十おころゆはれね嵐

ちかこいんてうまねえよほりゆ

ちかよりししを浪磨の雲の戸

今ちたてぬよ昔よたりにあま

ゆきにありしし小野もすのめ

あしほらけさふまぬえな

子ゆたえもわを浪の戸

~~~~~  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ  
あなをいふはあなをいふ

~~~~~  
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ
あなをいふはあなをいふ

言まきく極東流れきに松の世
いよもあまけり物ゆれ世
たよとれ松の言まきく松の
言の葉くけてありは松の
言の葉くけてありは松の
言の葉くけてありは松の

契おまし人もなる松の葉の世
いよもあまけり物ゆれ世
いよもあまけり物ゆれ世
いよもあまけり物ゆれ世
いよもあまけり物ゆれ世
いよもあまけり物ゆれ世

あはらしま波のちのちのあふ
まのちのちのちのちのちのち
秋風もあれを遠くへ吹く
あはらしま波のちのちのあふ
まのちのちのちのちのちのち

杜のちのちのちのちのちのち
あはらしま波のちのちのあふ
まのちのちのちのちのちのち
あはらしま波のちのちのあふ
まのちのちのちのちのちのち
あはらしま波のちのちのあふ
まのちのちのちのちのちのち

あゝ〜下海ふもあはれなるし
越えは〜子孫を〜家
よ〜松の葉は〜花
山路を〜支る〜山あり
歌は〜し〜た
〜は〜あ〜

あゝ〜花葉ふ〜花
〜あ〜あ〜あ〜
難波の〜あ〜あ〜
〜あ〜あ〜あ〜
玉れ結よ〜あ〜
〜あ〜あ〜あ〜

三也花は秋の空のくはる
香子の^ち中(焼)はるはる
蒼二意絶一は花のくはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる

花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる
花のくはるはるはるはる

はれしうしんさうあししん
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし

人も我老りてさうあ
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし

唐と倭乃あそむと久鴨を以て並
るのきりる管絃可葉まゝと仁の
撰と終り一朗詠をよむ世よあつる
く~~~~~室よ姉と妹の秋巻り唐のを
よご~~~~~やまよのよと下とん松のく中嶋
のよみあしきしる也~~~~~と持よるきりく

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the Japanese text on the opposite page. The text is faint and difficult to read.

及いくまう鴨川詠集と名付
わさよしハ 飛鳥家とて 廿一東よ
あはるもの由急よあつこの冠禱の
水鴨をよとこよふらよとよはつま
とちんかきつては伊勢に國あはれ乃
津の主人 芝原音信

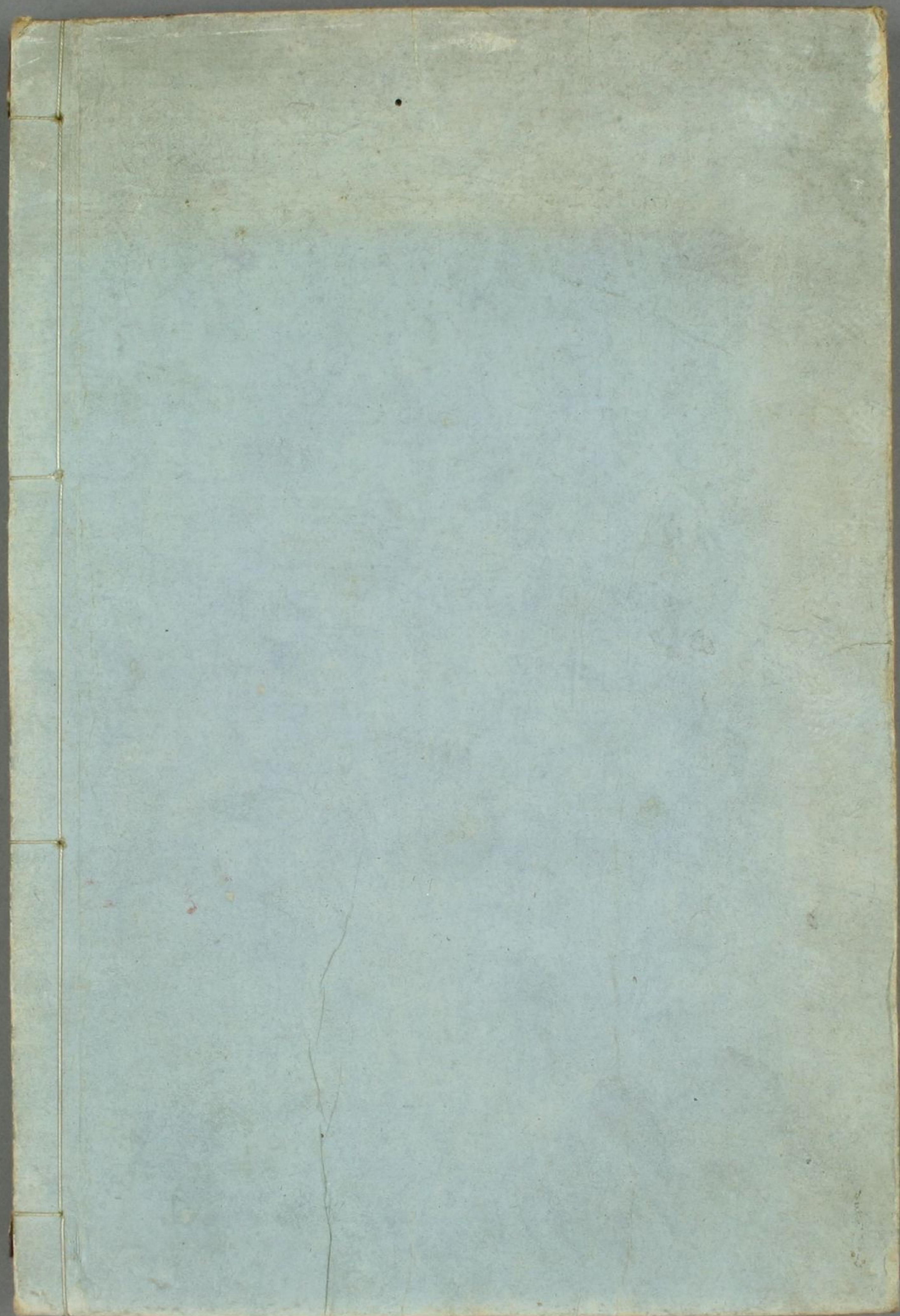
梅の書を桜のむすむすをよむむすむす
あつち申はの海に産まよおしとて國を
りよきしとちんかきつては伊勢に國あ
さつ紙あつち申はの海に産まよおしとて國を
ふあつちの海に産まよおしとて國を
字をよむむすむすの歌百首をよむむすむす
たつちあつちとて海に産まよおしとて國を
産まよおしとて海に産まよおしとて國を

名づけし事なればこそ山にこそありては神代にあり
かゝるもいかに世の世のあはれなるもあはれにあり
しと友垣世宗と信じていひては櫻本ちりりありて
色香をたつとくかゝるもあはれなるもあはれにあり
きり此物然るも一柱末の世にけりてくちせきん
しと世にありていひてあり

大正五年四月二十日 田山宗信書

田山宗信書





嘉永壬子新鐫

鴨川朗詠集

水流雲在樓